

平成21年度一般会計当初予算説明資料

2款 総務費

2項 企画費

交通政策課（内線：7100）

3目 交通対策費

（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新) 若桜線維持存続 支援事業	25,518	0	25,518				25,518	

トータルコスト 30,939千円（前年度 0千円）

従事する職員数 正職員：0.6人

主な業務内容 地元自治体との利用促進活動、事業計画等の協議・調整、補助金交付業務

事業内容の説明

1 事業の目的

「公有民営方式での上下分離」を導入し、自ら鉄道事業者として地域の生活交通の中核をなす若桜線を維持する地元両町（若桜町・八頭町）に対し、所要の支援を行う。

※公有民営方式の上下分離について

若桜鉄道が鉄道施設や車両を自ら保有・管理し、運行（自治体が赤字を補てん）している現行鉄道事業を、「地元両町による鉄道施設の保有・管理（下）」と「若桜鉄道による車両の運行（上）」に分離し、自治体が施設の維持・更新を負担して無償で使用させることにより、若桜鉄道の経営の健全化と継続的な運行確保を図る。

=若桜線の必要性=

- 約500名もの通勤通学客の大量輸送を、定時性を確保して担える輸送機関は鉄道のみ。特に年間45万人超の旅客の7割以上を占める通学生にとって他に代え難い貴重な交通手段。
- 地元両町は「若桜谷公共交通活性化総合連携計画」を策定し、若桜鉄道をその中核に据え、バスと一体となった地域の生活交通体系を構築する。

2 事業内容等

(1) 支援対象者

若桜線（若桜-郡家間）の鉄道施設を保有し第三種鉄道事業者となる若桜町及び八頭町

(2) 支援対象経費

地元両町が支出する下部の維持管理経費

- （主な項目）
- ・線路保存費（レール・橋りょう等の維持費）
 - ・電路保存費（信号・通信・踏切等の維持費）
 - ・輸送高度化事業費（設備投資、老朽施設更新）

(3) 支援割合

補助率：1/3

〔 両町が国に申請する「若桜鉄道再構築事業実施計画」では、5年経過時点で見直しを行う予定であることから、県の支援についても5年後に見直しを行うものとする。 〕

=1/3を支援する理由=

- 若桜鉄道がバスと一体となった地域の生活交通手段の中核として位置付けられ、バスと同様、鉄道の生活交通としての重要性が増大
- 公共交通の運行維持のため、行政の果たすべき役割が増大
 - ・国も地方鉄道への支援措置を充実（輸送高度化事業の補助率引き上げ（1/5→1/3）など）
- 地元両町は、自ら鉄道事業者となることに加え、若桜鉄道が万一赤字になった場合にはその補てんをすることになり、下部維持管理経費以上の大きな負担のリスクを負う

(4) 事業費

若桜線維持存続支援補助金 25,218千円 事務費 300千円

<参考>

下部維持管理経費の自治体経費支援額（今後5年間の想定）（単位：千円）

	H21	H22	H23	H24	H25
関係自治体	50,434	52,911	54,135	46,614	36,953
鳥取県	25,218	26,455	27,067	23,307	18,476
計	75,652	79,366	81,202	69,921	55,429